

エネルギー

1. 評価対象企業（21 社）

【石油・鉱業部門】（5 社）

I N P E X、石油資源開発、出光興産、E N E O S ホールディングス、
コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（16 社）

岩谷産業、日本瓦斯、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、
中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、
電源開発、レノバ、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	35
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 18 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、主にフェア・ディスクロージャーおよび ESG 関連の項目内容や配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.7 点（昨年度 61.3 点）、総合評価点の標準偏差は 7.3 点（昨年度 8.5 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5 社）が 75.1 点（昨年度 70.3 点）、電力・ガス部門（16 社）が 65.3 点（昨年度 58.7 点）となった。さらに業態を細分化して見ると点数の高い順に、石油 77.6 点（昨年度 73.5 点）、鉱業 71.4 点（昨年度 65.5 点）、ガス 68.0 点（昨年度 63.3 点）、電力 64.1 点（昨年度 56.8 点）となった。いずれの業態も、昨年度に比べ、総合評価平均点が大きく上がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 68%（昨年度 61%）、説明会等が 66%（昨年度 61%）、フェア・ディスクロージャーが 90%（昨年度 84%）、ESG 関連が 65%（昨年度 59%）、自主的情報開示が 66%（昨年度 60%）となり、5 分野全てにおいて、平均

得点率が上がった。

- ④ 評価項目（全 12 項目）について見ると、次のとおり、**フェア・ディスクロージャー**の 2 項目は共に平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。なお、(a)については、本年度において項目内容を見直した。

- (a) 「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM 対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 90%〔昨年度 92%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：80%台 2 社・90%台 19 社）
- (b) 「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか」（平均得点率 87%〔昨年度 82%〕）（得点率：70%台 2 社・80%台 9 社・90%台 9 社・100%1 社）

- ⑤ 一方、次の、**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目は、平均得点率が 50%台となり、全項目の中で最も低かった。昨年度に比べ、日本瓦斯、大阪瓦斯、四国電力、電源開発など一部の評価対象企業が得点率を大きく改善したが、全体としては低水準にとどまっており、下位評価企業には改善努力を強く求めたい。

- ・ 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 55%〔昨年度 32%〕）（得点率：20%台 6 社・30%台 3 社・50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 7 社・80%台 3 社）

- ⑥ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなり、いずれも昨年度に比べ、平均得点率が上がった。なお、(a)～(c)は、本年度において項目内容を見直した。

- (a) 「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか」（平均得点率 69%〔昨年度 63%〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 11 社・70%台 9 社）
- (b) 「非財務情報（人的資本等の社会分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか」（平均得点率 65%〔昨年度 63%〕）（得点率：40%台 1 社・60%台 16 社・70%台 4 社）
- (c) 「中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」（平均得点率 65%〔昨年度 56%〕）（得点率：30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 4 社・60%台 9 社・70%台 1 社・80%台 4 社・90%台 1 社）
- (d) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報」（平均得点率 60%〔昨年度 53%〕）（得点率：50%台 10 社・60%台 7 社・70%台 4 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 出光興産（ディスクロージャー優良企業（2 回連続 2 回目）、

総合評価点 78.6 点〔昨年度比+4.7 点〕

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 1 位（得点率〈以下省略〉81%）、**説明会等**が第 2 位（77%）、**ESG 関連**が第 3 位（77%）、**自主的情報開示**が同得点第 4 位（70%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 11 位（90%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価（昨年度第 4 位）となった。これに関連して、説明会以外にも経営トップとのミーティングの機会があることや、株式市場との対話を積極的に行おうとする経営トップの姿勢を評価する声が寄せられ、資本コストや株価を意識した経営など東証の要請への対応が優れているとの声もあった。また、「IR 部門の機能」が同得点第 3 位（昨年度同得点第 8 位）となり、「社外取締役との対話」も同得点第 4 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位（昨年度第 2 位）となった。これらに関連して、IR 部門の積極的な取組姿勢を評価する声があったほか、社外取締役による定期的なスモールミーティングの開催やセミナーの実施を評価する声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第2位（昨年度第4位）となった。また、「説明資料等における開示」も同得点第3位（昨年度第4位）となり、いずれの項目も、昨年度に比べ得点率が改善した結果、この分野において第2位（昨年度第4位）となった。これらに関連して、説明資料の内容は充実しており、取材時の補足説明も的確であるとの声があったほか、増減益要因の説明が明快であるとの声も寄せられた。なお、高機能材や電力・再エネなどはサブセクター毎の水準や動きをもう少し定量的に開示すれば、より良いとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位）が90%以上の得点率となった。「多様な情報提供」は同得点第11位となったが、85%以上の得点率であった。これらに関連して、英文資料のタイムリーな開示を評価する声があった。なお、説明会の質疑応答の全スクリプトをウェブサイトに掲載することを望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第3位となった。これに関連して、ROE 目標達成に向けた前向きな姿勢を評価する声があった。「コーポレート・ガバナンスに関する開示」および「非財務情報（人的資本等の社会分野）に関する開示」が共に同得点第3位となり、「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）に関する開示」は同得点第4位となった。これらに関連して、ESG セミナーの開催を評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は同得点第4位となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 コスモエネルギーホールディングス（総合評価点 78.5 点〔昨年度比+4.9 点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、ESG 関連が第1位（79%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第2位（80%）、説明会等が同得点第3位（76%）、自主的情報開示が同得点第7位（68%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第11位（90%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善し、トップとは極めて僅差の第2位となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が第2位に、「経営陣の IR 姿勢」が第4位となった。これらに関連して、経営トップが株式市場との対話に積極的であること、経営陣とミーティングの場で率直な意見交換ができることを評価する声も寄せられた。また、IR 部門と経営陣の距離が近いとの声もあった。「社外取締役との対話」は第11位となったが、昨年度に比べ、得点率が改善した。これに関連して、社外取締役との定期的なミーティングの開催を評価する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第3位となり、「説明資料等における開示」は第5位となった。これに関連して、説明資料の内容が豊富で、取材時の補足説明も定量的で有益であるとの声も寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位）が90%以上の得点率となった。「多様な情報提供」は同得点第11位となったが、85%以上の得点率であった。これらに関連して、英文資料のタイムリーな開示を評価する声があった。なお、説明会の質疑応答の全スクリプトをウェブサイトに掲載することを望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が同得点第1位となった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」（第2位）も高い評価となった。これらに関連して、株主還元方針が明確であること、また、ROE 目標達成に向けた前向きな姿勢を評価する声があった。「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）に関する開示」は同得点第2位に、「非財務情報（人的資本等の社会分野）に関する開示」は同得点第3位となった。これらに関連して、ESG セミナーの開催を評価する声があった。なお、統合報告書での Scorp3 の記載を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は同得点第7位となった。これに関連して、風力事業の見学会など各種情報提供の機会が充実しているとの声があった。

第3位 日本瓦斯（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 78.0 点〔昨年度比+4.3 点〕、昨年度第2位〔一昨年度第2位〕）

- ① 同社は、説明会等が第1位（82%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（92%）、ESG 関連が第4位（77%）、自主的情報開示が同得点第4位（70%）、経営陣の IR 姿勢等が第5位（76%）となった。昨年度に比べ、ESG 関連の得点率が大きく改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。また、「社外取締役との対話」は同得点第4位となり、昨年度に比べ、得点率が大幅に改善した。これらに関連して、IR 部門のクオリティが高いとの声や、社外取締役とのスモールミーティングの開催を評価する声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」は第10位（昨年度第2位）となった。これに関連して、経営トップの IR への取組姿勢や、経営方針・戦略、資本政策を明確に示している点を評価する声があった。一方、経営トップとの対話の機会を一層望む声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等における開示」および「説明会、インタビューにおける開示」が共に最も高い評価となり、この分野において、昨年度に続き第1位となった。これらに関連して、説明資料の情報が充実しているとの声や、実績・計画共に詳細な数字が開示されているとの声が寄せられた。なお、業績予想の精度が課題との声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「多様な情報提供」が同得点第2位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」も同得点第3位となり、いずれも 90%以上の得点率であった。これらに関連して、質疑応答を含めた動画配信を評価する声があった。なお、電話会議、事業説明会の全スクリプトのウェブサイト掲載を望む声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が最も高い評価となり、昨年度に比べ、得点率が大幅に改善した。「コーポレート・ガバナンスに関する開示」も同得点第3位となった。これらに関連して、明確な株主還元方針や、意欲的な資本効率性目標設定が示されている点を評価する声が寄せられた。また、ROE 向上に向けた戦略も明確であるとの声もあった。「非財務情報（人的資本等の社会分野）に関する開示」は同得点第10位に、「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）に関する開示」は同得点第16位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は同得点第4位となった。これに関連して、事業説明会など各種情報提供の機会が充実しているとの声のほか、月次数量・件数の詳細な開示を評価する声があった。

同社は、3回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

（参考）部門別の第1位企業

【石油・鉱業部門】

出光興産（総合評価点 78.6 点、全体第1位）

【電力・ガス部門】

日本瓦斯（総合評価点 78.0 点、全体第3位）

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（エネルギー:全体）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 5点)		評価項目4 (配点 35点)		評価項目1 (配点 5点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5019 出光興産	78.6	28.4	1	15.3	2	4.5	11	26.9	3	3.5	4	1
2	5021 コスモエネルギーホールディングス	78.5	27.9	2	15.1	3	4.5	11	27.6	1	3.4	7	3
3	8174 日本瓦斯	78.0	26.7	5	16.4	1	4.6	3	26.8	4	3.5	4	2
4	5020 ENEOSホールディングス	75.7	26.4	6	14.6	6	4.3	19	27.0	2	3.4	7	4
5	1605 INPEX	75.4	25.6	8	15.1	3	4.7	2	26.2	5	3.8	1	6
6	9532 大阪瓦斯	74.8	27.5	4	13.8	7	4.6	3	25.6	6	3.3	12	8
7	9508 九州電力	73.1	27.9	2	13.5	8	4.6	3	23.6	7	3.5	4	5
8	9503 関西電力	69.6	26.1	7	13.5	8	4.6	3	22.1	11	3.3	12	7
9	9507 四国電力	67.5	24.7	9	12.7	11	4.6	3	22.6	9	2.9	18	15
10	1662 石油資源開発	67.4	23.4	12	15.0	5	4.5	11	20.9	17	3.6	2	10
11	9513 電源開発	66.7	24.1	10	13.5	8	4.5	11	21.2	16	3.4	7	11
12	9509 北海道電力	65.2	22.8	13	12.5	13	4.6	3	22.0	13	3.3	12	16
13	9504 中国電力	64.8	23.7	11	11.8	18	4.6	3	21.9	15	2.8	19	19
14	9506 東北電力	64.4	21.8	14	12.7	11	4.4	16	22.1	11	3.4	7	18
15	8088 岩谷産業	63.7	21.4	16	12.5	13	4.4	16	22.0	13	3.4	7	12
16	9531 東京瓦斯	62.0	21.5	15	12.2	16	4.6	3	20.5	19	3.2	17	9
17	9505 北陸電力	61.8	20.5	19	11.3	20	4.3	19	22.4	10	3.3	12	21
18	9533 東邦瓦斯	61.7	19.8	20	11.6	19	4.4	16	23.1	8	2.8	19	17
19	9502 中部電力	61.6	21.4	16	12.0	17	4.5	11	20.9	17	2.8	19	13
20	9519 レノバ	57.1	18.8	21	12.5	13	4.9	1	17.3	20	3.6	2	14
21	9501 東京電力ホールディングス	53.2	20.8	18	8.5	21	3.9	21	16.7	21	3.3	12	20
	評価対象企業評価平均点	67.65	23.86		13.14		4.51		22.83		3.31		

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電力・ガス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位	
			評価項目3 (配点 35点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目2 (配点 5点)	評価項目4 (配点 35点)	評価項目1 (配点 5点)						
							評価点	順位	評価点	順位	評価点		順位
1	8174 日本瓦斯	78.0	26.7	3	16.4	1	4.6	2	26.8	1	3.5	2	1
2	9532 大阪瓦斯	74.8	27.5	2	13.8	2	4.6	2	25.6	2	3.3	7	4
3	9508 九州電力	73.1	27.9	1	13.5	3	4.6	2	23.6	3	3.5	2	2
4	9503 関西電力	69.6	26.1	4	13.5	3	4.6	2	22.1	7	3.3	7	3
5	9507 四国電力	67.5	24.7	5	12.7	6	4.6	2	22.6	5	2.9	13	10
6	9513 電源開発	66.7	24.1	6	13.5	3	4.5	10	21.2	12	3.4	4	6
7	9509 北海道電力	65.2	22.8	8	12.5	8	4.6	2	22.0	9	3.3	7	11
8	9504 中国電力	64.8	23.7	7	11.8	13	4.6	2	21.9	11	2.8	14	14
9	9506 東北電力	64.4	21.8	9	12.7	6	4.4	12	22.1	7	3.4	4	13
10	8088 岩谷産業	63.7	21.4	11	12.5	8	4.4	12	22.0	9	3.4	4	7
11	9531 東京瓦斯	62.0	21.5	10	12.2	11	4.6	2	20.5	14	3.2	12	5
12	9505 北陸電力	61.8	20.5	14	11.3	15	4.3	15	22.4	6	3.3	7	16
13	9533 東邦瓦斯	61.7	19.8	15	11.6	14	4.4	12	23.1	4	2.8	14	12
14	9502 中部電力	61.6	21.4	11	12.0	12	4.5	10	20.9	13	2.8	14	8
15	9519 レノバ	57.1	18.8	16	12.5	8	4.9	1	17.3	15	3.6	1	9
16	9501 東京電力ホールディングス	53.2	20.8	13	8.5	16	3.9	16	16.7	16	3.3	7	15
	評価対象企業評価平均点	65.34	23.10		12.56		4.51		21.93		3.24		

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（石油・鉱業部門）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディス クロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前 回 順 位	
			評価項目3 (配点 35点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目2 (配点 5点)	評価項目4 (配点 35点)	評価項目1 (配点 5点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点		順位
1	5019 出光興産	78.6	28.4	1	4.5	2	26.9	3	1
2	5021 コスモエネルギーホールディングス	78.5	27.9	2	4.5	2	27.6	1	2
3	5020 ENEOSホールディングス	75.7	26.4	3	4.3	5	27.0	2	3
4	1605 INPEX	75.4	25.6	4	4.7	1	26.2	4	4
5	1662 石油資源開発	67.4	23.4	5	4.5	2	20.9	5	5
	評価対象企業評価平均点	75.12	26.34		4.50		25.72		3.54

2024年度評価項目および配点（エネルギー）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・ 会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていますか。	20
(2)社外取締役との対話	
・ 社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・ IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明資料等における開示	
・ 決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、前提条件、感応度、利益率または利幅、主要費用。	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・ 説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・ 経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
(2)多様な情報提供	
・ リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか。	2
4. ESGに関連する情報の開示（35点）	配点
(1)非財務情報（ESG情報等）に関する開示	
①非財務情報（気候変動問題等の環境分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	8
②非財務情報（人的資本等の社会分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	7
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示	
・ 中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	15
(3)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・ コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・ 事業を理解する上で重要と思われる定量情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等。	5

エネルギー専門部会委員

部 会 長	新家 法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野 零児	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	大畠 彰雄	野村アセットマネジメント
	神近 広二	SMBC 日興証券
	西川 周作	大和証券
	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
	山崎 慎一	野村證券

評価実施アナリスト（18名）

安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	新家 法昌	みずほ証券
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
荻野 零児	モルガン・スタンレー MUFG 証券	西川 周作	大和証券
神近 広二	SMBC 日興証券	福元 千佳	JP モルガン証券
神谷 悠介	SOMPO アセットマネジメント	藤岡 哲也	アセットマネジメント One
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
佐久間 聡	QUICK	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
佐々木 聡	SOMPO アセットマネジメント	山崎 慎一	野村證券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。